

## 第2回 練馬区の将来像を考える区民懇談会 (並び替え版)

- 個人の記入カードはそのままです。
- グループングを若干変更しています。  
(グループングの変更点は、元のペーパーと比較してください。)
- 皆さんの討議を受けて、練馬区のまちや人の将来像をイメージする文章にしました。  
(文章化しておくことで、前回の議論のふり返りができます。また、各々の将来像を実現するため、現在何が問題となっているのかなどの議論がしやすくなります。)
- 1ページには子どもや区民などの将来像を、2ページには、制度や仕組みの将来像をまとめました。

第2回 練馬区の将来像を考える区民懇談会  
(並び替え版)

### 子どもの将来像

家庭・家族  
の将来像

区民の  
将来像

まちの  
将来像

### 自立・社会性・協調性・やさしさを 身に付けた子どもたち

自ら進んでボランティアなど地域活動に参加できる奉仕の精神の育まれた子どもが育つまち

だれでもボランティアができる、奉仕精神を育む

奉仕活動に進んで参加する青少年の育成  
(地域活動への参加。多面的な人間交流の機会と場)

誰でも区にボランティアとして貢献できる

あいさつをする、ごみを拾うなど社会規範を身に付けた青少年が育つまち

そんなこと常識だよと注意することがほとんどない社会

落ちているゴミを拾う子どもをそだてる

あいさつのある学校  
あいさつをする子どもを育てる

### 個性や多様性を受け入れ、他者を思いやる心をもつ子どもたち

生きるものの命の大切さを知り、他者を尊重しつつ、思いやりを持てる心を持つ子どもが育つまち

命を大切にできる心や思いやりのある小中学生の育成。

命・人権・食べ物などの大切さを一人ひとりが十分に認識している。

練馬の地を愛するやさしい心、思いあう心。

だれも区別されることがなく、ともに社会のメンバーとして生きられる社会(まち)

どんなに重い障害があっても分け隔たれることがない。

普通学級にハンディのある子どもが在籍していることを、いわゆる健常者やその保護者が感謝している状態。

障害児(者)が素晴らしい個性の持ち主として尊重されるノーマライゼーション状態。

### 自分自身を大切にし、健康・元気で のびのびとした子どもたち

健康、元気で、のびのびと子どもが育つまち

スポーツ、勉強に意欲を持てる。

スポーツサークルの活性化。

健康で活力(体力)のある小中学生の育成

幼・小・中・高の児童・生徒がのびのびと、はつらつと、自分の良さに自信をもっている状態。

一人ひとりの子どもが他の人の顔色を気にせず自己主張できる。

自分自身を大切に思う心・前向きに生きる意欲がある子どもが育つまち

### 子どもを健やかに育てる基礎となる 教育力を備えた家庭・家族

子どもを慈しみ・見守り・育てる家庭の力が備わっている社会(家庭)

家族そろって会話を  
楽しみながら食事をとる

家庭の教育  
家庭でしかできない教育の充実

父親も積極的に参加している学校  
今は、母親が主に多く参加しているため

家庭教育の充実  
・愛の場  
・憩いの場  
・教育の場

人間個々には教育の基本は幼少時の躰や育ちがその後の人生を大きく左右するものと認識しています。

### 健康づくり、国際交流、伝統文化など生涯にわたり学習し、地域に貢献する姿勢をもつ区民

郷土を理解し、誇りをもって、世界の国々・人々と交流する区民

伝統文化や(伝統)芸術の継承。

国際化のためにはまず自分の国を知る(伝統的な文化・歴史)。

地元地域の歴史に誇りをもっている。

外国人、帰国子女など、様々な言語をもつ人が共に学びあっている。

文化財の保護と活用。

世界の地域との交流。

自らが学び、健康・体力をつくり、地域に貢献できる地域人

地域人材育成カレッジ

全ての区民が気軽に図書館を訪れ、そこで楽しみ、学び、あらゆる問題解決までする⇒自己責任社会へ

自分が提案した講座を自ら区民に対して気楽に開ける。

病気になってからではなく、病気にならないための健康維持、体力増進の取組がなされている。

退職していきなり『地域デビュー』して失敗しないように早くから地域に参加する心構え

地域を越えた生涯学習。

### だれもが安心して楽しく暮らせるまち

子どもが生まれ・安全に楽しく遊び、育ち、安心して生活できるまち

一人で生きられる区練馬区

練馬区の四季折々の自然を楽しみながら日常生活が送れる練馬区

子どもに安全なまち

練馬区の誰もが安心して明るく住みよいまちづくりをしているという願いをもっています。

安心・安全に老人、子どもが一人でも出かけられる街

放課後に子どもたちが遊んでいるまちづくり(安全に)

お年寄りや子どもが一人で出かけられる環七、環八下に地下鉄を設けるなど交通網の整備

子どもがたくさん生まれる区になる

## 子どもの学力・心の教育を地域の責任と裁量で推進していく教育改革

教師の独自採用、民間などからの採用などにより、指導者として資質の高い教師を配置していく

練馬区独自の教員の養成・採用。

子ども、親から尊敬される教師の育成、環境づくり。

小中学校の学校経営に企業出身者を校長に迎えて学校ブランド力向上を図る。

小学校1年～6年まで責任を持って指導して下さる先生(子どもに対して熱い思いがある)

学校教育に道徳学習の時間を設け、徳・義の心を育てていく

いじめのない教育意見交換は大いに良い。

道徳教育の大切さ(教える側もいかに大切、必要と感じるか)

人を思いやる心(道徳、モラル)の充実。

道徳的情操教育の充実。

地域の責任と裁量のもと、着実な教育改革が進められていく

児童生徒の知的発達段階と(それとは必ずしも一致しない)身体的発達段階に適応した小中学校の教育制度。

週5日制を見直し、月数回を授業を含めた行事にあてる。

絶えずPDCAが行われ着実な改善が進められている状態

教育委員会を文科省の下請けとせず、練馬区の教育改革の司令塔として機能させる。

地域・民間など多様な人々が教育に関わり、着実な学力と生きる力を習得していく

言語力をしっかり身につけた子どもたち(すべての教科において筋道をつけて考え・話す)

練馬区は公立校の割合がかなり高いが、民間のノウハウを入れるために私立校を増やす。

## 子どもたちの心身の健全育成のための学校・家庭・地域の連携づくり

学校・家庭・地域の連携コミュニケーションを促し、区民全体で子どもの教育環境をつくる

学校と地域の方々に参加できる(いろいろな行事等)

学校・家庭・地域の連携

学校・保護者・地域が条件に応じて本音で協働できる状態

更なる地域・学校・家庭との連帯・協力

地域での活発な交流・コミュニケーション

公立・私立の差がなく区民に提供するそれには夫婦愛和のもと、常に子どもの養育に関心を示し、見守っていくという親の姿勢が大事です。自己中心の生き方をやめ、人や世のために役立つ生き方を根気よく指導していきたいものです。

家庭教育や社会・生涯学習の充実

他者への気遣い・配慮の心を醸成するための異年齢の交流・ふれあいの環境をつくる

幼・小・中・高の連携、関係性を濃密にする。

幼稚園・小学校・中学校の交流を深め、他の学年を知る。

子どもが子ども自身で子ども間の問題を解決していく状態-ピア・サポート。

学校と図書館、ふるさと文化館を連携させ、学校における体験学習を充実させていく

小中学校の授業と図書館、ふるさと文化館と連携させて、体験を通して考える学習を行う。

漫画を含む本の幸せな出会いができる学校図書館・区立図書館と学校教育(感想文要求型でなく)。

家庭・地域・学校が連携することで、不登校やいじめなど学校の問題行動をなくしていく

幼・小・中・高校で、問題行動(暴力・いじめ・不登校)がほとんどない状態

不登校をなくす

## ふれあい・学びのための多様な機会を有する地域の核としての学校づくり

学校は地域の核として、地域の力を活用した特色ある学校づくりを進め、学びの複合的な機能を有していく

各学校の特色が見える

学校と地域と家庭を連携させた地域本部をつくり、現在、学校や家庭ではできないことを補完しつつ、地域コミュニケーションをつくる。

学校を地域のセンターに・カルチャーセンター・ヘルスセンター・コミュニティセンター

地元地域の人との交流が盛んな学校

幼・小・中学校とシニアスクールをハード(場所)もソフト(授業等のかかわり)、一体化させる。

体育館、児童館、敬老館、保健所がばらばらに機能するのではなく交流しあえる施設。

学区と区域の違い

学校を生涯学習の拠点に。

色々な世代が参加できるプログラム(催し)の充実(区単位でなく、地域・学校ごとに)

年齢を超えてふれあい・交流の機会を生む生涯学習環境をつくる

高齢化社会になり誰もが交流できる練馬区。

年齢にこだわらず教えあう環境。

自分が学びたいと思うことをだれでも学べる。

人と人との交流をできるだけ多くできたい。

幼・小・中・高・大…様々な世代の子どもが同じ場所で触れ合っている。

## 環境や区民の楽しみなどに配慮した施設整備

楽しむ・競う・観るなどスポーツの多機能性を活かし、他区に誇るスポーツ施設を充実させる

地域体育館はあるが、観覧席のある武道場を作たらどうかと思う。

テニス、水泳競技場も観覧席のある施設にする。

野球場が少ないため春・秋の2大会開催で夏の大会が実施できない。観覧席のある野球場を考える。

陸上競技場も1面で機械操作ができず手作業で行っている。大泉に都の施設があるが中途半端。観覧席がある競技場を作る。

体育館7館の内6館が完成し、現在豊玉、中村で練習が始まっています。地域の体育館は充実していますが観覧席のある体育館を1館考えたい。(70万区民のため)

(観覧席のあるスポーツ施設を作る)ことを考えると光が丘公園の運動施設を区が総合スポーツセンターという大都市練馬にふさわしい夢と希望と感動を与えられるような施設を考えていきたい。

自然や環境に配慮した学校・スポーツ施設等の整備を進める

温暖化に伴う勉強しやすい設備

緑の多い学校

健康維持のための公園間を結びサイクリングロードの新設

温暖化対策として高層ビルの屋上庭園が義務付けられている先進区。

教育改革

学校・家庭・地域の連携

施設整備

地域の核としての学校づくり